

伊賀市の文化財 29

市指定有形文化財（絵画）

絹本著色地蔵十王図 11幅

所有者 西蓮寺
場所 長田

「うそをついたら閻魔さんに舌をぬかれるよ。」

子どもの頃、大人から言われたことはありませんか。閻魔さんは地獄の門番で、生前に犯した罪によって地獄におとし、舌をぬくと教えられたのです。

実は、中国の「預修十王生七経」や日本の「地藏菩薩発心因縁十王経」という經典には、十人の冥王（十王）がいて、人は死後七日目ごと（初七日〜七七日）、その後は百日、一年、三年の合計十回、十人の王に順番に生前の善行と悪行を裁かれ、いくべき世界が定められるとされています。十王のひとつである閻魔王は五七日忌の時に審判する王です。十王（秦広王、初江王、宋帝王、五官王、閻魔王、變成王、泰山王、平等王、都市王、五道転輪王）それぞれは、人を裁くと同時に人を救うとされ、十王は平安末期から末法思想と冥界思想と共に、近世に至るまでおおいに信仰されました。

十王の彫刻や絵画は東アジア全域で盛んに制作され、鎌倉時代や室町時代に中国から伝えられました。また、これをもとに日本製の

◀絹本著色地蔵十王図 11幅のうち

五七閻魔大王図



十王図などが多く作られました。

西蓮寺の十王図には地獄の十王による裁きと鬼卒らによって拷問を受ける亡者たちの様子が描かれています。作品のひとつに「陸信忠」という寧波にあった工房名がかかれていて中国から伝えられたことが分かります。

このように地蔵菩薩を描く1幅と一王ずつ描く10幅からなる11幅形式の陸信忠作地蔵十王図としての完本は滋賀県の永源寺にあることが知られています。

また、作品の湧雲の描写は白く平板に着色した上から朱線で描き起こされていて、奈良国立博物館の十王図に同種の湧雲が描かれていることから、元代の14世紀の制作と考えています。

教育委員会文化財室

☎ 22・9681



市の鳥
▼キジ



▲市の花
ササユリ

ひとが輝く 地域が輝く
～住み良さが実感できる自立と共生のまち～
伊賀市 IGA CITY



第4回ふるさと学習会

9月8日、西高倉で第4回ふるさと学習会としてさつまいも掘りが行われました。

さつまいも掘りには小学5・6年生およそ50人が参加し、曇をはがしてから、次々と大きなもを掘り出しました。

さつまいも掘りのあと、近くの空き地で焼き芋にしてみんなで試食しました。「ホクホクしてる」「おいしい」など、参加した子どもたちは、収穫に満足していました。また、掘り出したもはお土産として持ち帰りました。
(今月の表紙)



発行日 平成19年10月1日
発行 伊賀市
〒518-8501
三重県伊賀市上野丸之内116番地
編集 企画振興部広聴広報課
☎ 0595-22-9636
FAX 0595-22-9617
伊賀市ホームページ：
<http://www.city.iga.lg.jp/>



この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。